

## 「授業改善のための学生アンケート」2023年度後期 顕彰授業における工夫

2023年度後期「授業改善のための学生アンケート」の顕彰授業における工夫をご紹介します。

**【参考】** 顕彰の対象となったアンケート項目は以下の7項目です。

- Q6 教員の説明はわかりやすかった。
- Q8 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
- Q9 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
- Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できた。
- Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
- Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
- Q16 この授業の内容を十分に習得できた。

### < 顕彰授業 1 >

通年 月曜日3限 外国語科目

「韓国語（中級）B」丹羽 裕美 先生（文学部国語国文学科非常勤講師）

この度は思いがけなく、このような素晴らしい顕彰を賜り誠に光栄に思います。しかし、私はこれを、韓国語中級Bで共に学んだ学生にも送りたい気持ちでおります。このクラスの学生が素晴らしかった点は以下の3つです。

- ・ 授業を極力休まない、万が一休んでしまった場合には自ら学習し、分からないところを教師に質問し解決しようとする力
- ・ 韓国語でコミュニケーションできる力を身につけようと、授業中には声をだして発表や発言をする授業態度
- ・ ハングル能力検定試験に挑戦しようと積極的に学ぶ姿勢

このような学生たちと共に、私もその熱意に応えたいリスペクトの気持ちを持ちながら授業に臨んできました。教員としての経験がまだ浅い私自身、より良い授業ができないか試行錯誤しながらの毎日で、至らない点が多いと思っておりますが、この機会に授業の様子を振り返りたいと思います。

#### 1. 授業の進め方

初級レベルで学習した内容を会話の中で活用したり、中級レベルの新しい単語・表現・文法を学習することで、韓国語でのコミュニケーション能力のさらなる向上を目指すクラスです。初級クラスでは文法や表現を理解し、宿題では復習することを中心にするのに対し、中級クラスでは、授業中では口や耳を大いに用いて楽しい時間を作りたかったので、会話

文・練習問題などを予習してくるよう勧めました。幸い、前年度に私の「初級」を受講した学生だったので、初級で学んだ基礎の上に中級の表現を応用していくことがスムーズにできたように思います。学生からは「昨年学んだことを活かして更に勉強できた点が良かった。」「韓国語で話すことが出来るようになり、韓国の方と連絡が取れるようになった。」「推しが話していることが理解できるようになってうれしい。」など感想を聞くことが出来ました。

## 2. 説明の仕方

韓国語は、日本語と同じ膠着語という言語体系のため、文における語が似ており、初めて学習する人にとっては理解しやすい言語です。しかし、似ているために難しい面もあります。例えば、日本語では「先輩に相談する」「役所で相談する」のように「相談する」は同じ語で用いますが、韓国語ではそれぞれ異なる語を用います。また、中級になると文法や発音で、不規則的なものが含まれてきます。そのような場合、覚えるだけでは面白味がないので、以前はAだったものが文字の消滅によってA'になったなど、通時的な現象の説明を交え、何故そうなるのか？を紐解くように説明するようにしています。時には、私自身の失敗談から「この場面ではBの表現を使うほうが良かったのにね。」など印象に残る説明を心掛けています。

## 3. テキストについて

身近に感じるテーマや、韓国の生活文化を学べる会話文を取り入れたテキストを用いています。また、韓国で流行っている歌や、韓国映画の鑑賞なども取り入れています。映画を見て、聞き取れた言葉をカタカナでもよいので書かせ、挙げてみることで、日本と韓国の違いや共通点などの気づきがあったり、以前よりも韓国語が聞き取れるようになっていることを実感することが出来て、学習へのモチベーションが高まっていくのを感じました。

## 4. 検定試験

11月に行われる韓国語の検定試験を紹介すると、全員がチャレンジしたいと意志を表示したため、試験勉強に必要な資料を提供したり、夏休みにも韓国語の学習をフォローできる体制を作りました。全員が目標の級に合格できたことは大きな成果であり、合格を目指して必要な語彙を覚えたため、その後、授業での作文や会話力の向上に繋がったと思います。

最後になりますが、日本と韓国は距離的に非常に近い国でありながら、長らく「近くて遠い国」と言われてきました。しかし、これからの日韓の未来を築いていくには、互いの「ことば」を学び、相手のことばに耳を傾け、それを理解しようという「心」が通ってこそ、その教育の意義となるでしょう。



< 顕彰授業 2 >

後期 木曜日 3 限 英語英文学科専門科目

「児童英語教材研究」森 真理子 先生（文学部英語英文学科非常勤講師）

「児童英語教材研究」で常に念頭においてほしいポイントとして、以下の三つがあります。

- ①「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能のうち、まず育てたいのは「聞く」力。
- ②子どもの特性に適した教材・指導法。
- ③母語が英語でなくても英語が話せる先生は、母語が英語でない子ども達のモデルとして、楽しく英語を使う姿を常に見せること。先生自らが教材であることを意識すること。

これらを実現するために、

- ・先生の説明はわかりやすい英語で、なるべく短く、顔の表情・ジェスチャー・絵などを用い、声ははっきり大きく、「聞かせる」ことを意識して何度も繰り返し聞かせる（Q6）
- ・伸ばしたい技能に適した「教材」（Q8）
- ・子ども達が目的を意識できるような「教材」（Q13）
- ・子ども達が自ら取り組めるようなレベルの「教材」（Q14）
- ・子ども達が「楽しいからもっとやりたい」と思うような「教材」（Q15）
- ・子ども達が達成感を感じられるような「教材」（Q16）

等々に留意して各自「教材」を作り、模擬授業をし、お互いに意見を出し合い学び合います。

今回の学生アンケートの項目は、図らずも授業で学生に求めていることであり、また学生のモデルである私の授業に求められることでもあります。私の授業を評価することで、学生が再度「授業・教材の作り方」を考察してくれたら嬉しく思います。

**【参考】** 顕彰の対象となったアンケート項目は以下の7項目です。

- Q6 教員の説明はわかりやすかった。
- Q8 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
- Q9 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
- Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できた。
- Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
- Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
- Q16 この授業の内容を十分に習得できた。